11/21 毛祖

# 無事で……涙の家族

ジュバに向けて出発する隊
見送る家族＝20日、青森空

## 青森 南スーダンPKOに陸自隊員出発

日本中が反対の声をあげた戦争法＝安保法制の成立から約1年2カ月。南スーダンPKO（国連平和維持活動）に参加する陸上自衛隊第11次派遣隊の第1陣が20日午前、青森空港を出発しました。戦争法に基づく任務が付与された初の海外派遣です。

（吉本博美）

小雨が降り、強風が吹きぬける空港の屋上。家族らと大勢の報道陣は、民間機に乗り込む隊員たちの姿を見守りました。最後の瞬間まで収めようとカメラをかざす祖父母、涙を流しながらたたずむ女性、日の丸の旗を左右に振って見送る人たち…。

「パパ、お仕事がんばってね！」。高台の上にのった6歳の少女が、フェンスをつかみながら叫びます。彼女の体を支えていた祖母は眼鏡をはずし、涙をぬぐいました。「息子には無事でいます」

午前10時すぎ。飛行機が飛び立つと、夫や息子の前では我慢していたのか、多くの女性たちが鼻を赤らめて涙をこぼしました。

「お仕事ですから、私は『応援しているよ』と言うしかない」と話す30代の女性。白いコートに、化粧と髪形を完璧に整えたはなやかな姿から、精いっぱい、夫を見送ろうとする気持ちが伝わります。一方で、「彼と半年も離れるのがつらい。本当は、すごく心配なんです」と本音を漏らします。

武力衝突が連日のように発生する南スーダンですが、隊員家族への説明は〝安全〟が強調されるばかり。ある母親は、「新任務のことは具体的に何も聞かされていない」と不安を隠しません。目の前を歩いていた若く壮健な隊員たちが、戦争現場に飛び込むのかと思うと焦燥感に駆られます。

「武運長久を」。前日、青森駐屯地での壮行会で自民党の佐藤正久参院議員がこう叫び、〝戦果〟を求めました。しかし、家族の願いは「無事に帰ってきてほしい」。ただ、それだけです。

## 「戦争法、今すぐ廃止」

### 空港前 市民ら抗議

南スーダンPKO（国連平和維持活動）に参加する陸上自衛隊が出発した20日、日本平和大会青森県実行委員会は青森空港前で、隊員らの出発時間に合わせて抗議行動を行いました。

参加者は、リンゴのモチーフに「守ろう平和憲法」と書いた手作りのプラカードや「青森から青年を南スーダンに送るな」という垂れ幕を掲げて、「9条守ろう、平和が一番」「戦争法は今すぐ廃止」と呼びかけました。

弘前市に住む坂本恵津子さん（61）は「友人の息子が自衛隊員。彼女は『息子もいずれ派遣されるのではないかと不安。私は表立って行動できない分、反対を訴えてくれてありがとう』と言われました。南スーダンには万が一のために隊員用のひつぎを持っていくと聞いたが、本当に無事で帰ってきてほしい」と訴えました。

恵津子さんの娘・麻衣子さん（34）は幼いわが子を抱きながら、「昨日の自衛隊の壮行会をテレビでみると、まだ小さい子どもがいる隊員がそれなりにいて、本当に心配だと思った。『人の役に立ちたい』という隊員の思いを利用する政府の姿勢が許せません」と語りました。